



キリンホールディングス株式会社

ポジティブインパクトで、持続可能な地球環境を次世代につなぐ

水や農産物など自然の恵みを利用するキリングroupにとって、地球環境の持続可能性は事業継続の前提であり、容器包装や気候変動影響への対応などのバリューチェーンでの環境負荷低減は経営基盤の強化にもつながります。キリングroupは2020年に改定した「環境ビジョン2050」のもと、ポジティブインパクトで、持続可能な地球環境を次世代につなげます。

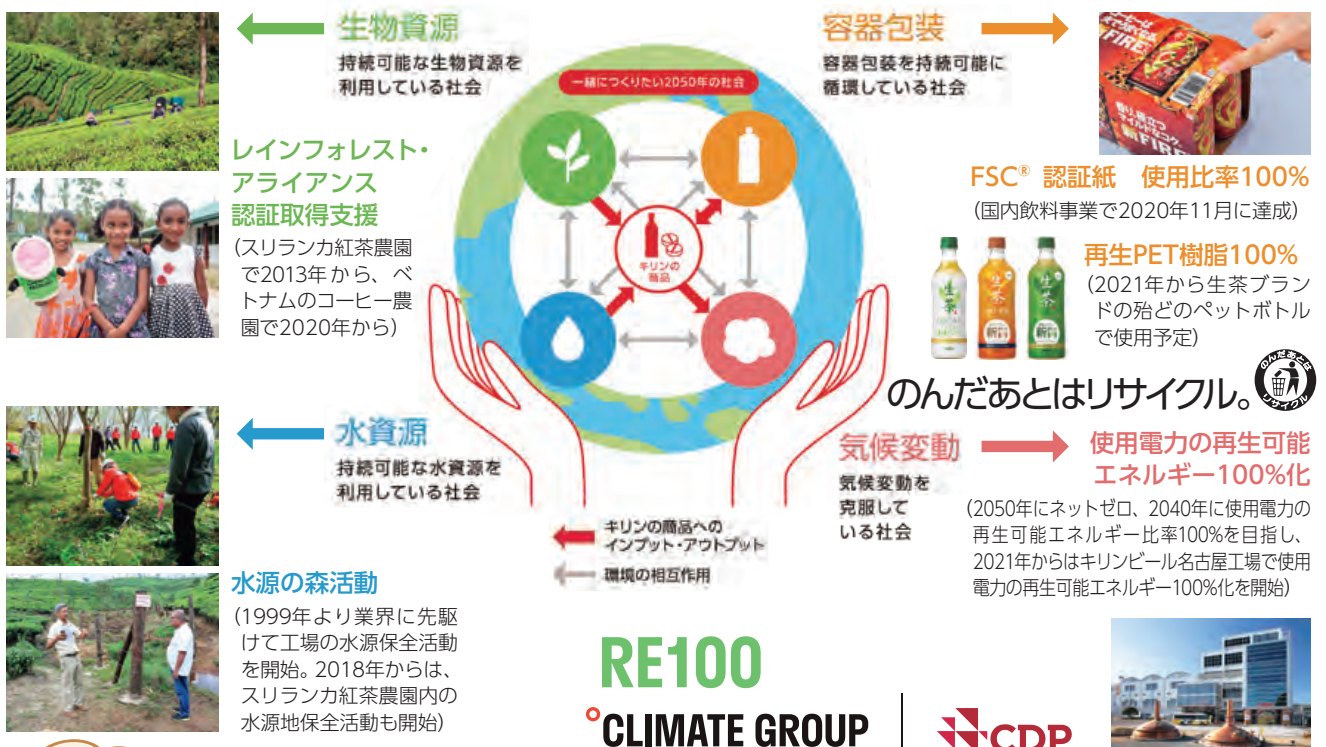
キリングroupの環境への取組み

キリングroup 環境ビジョン2050 ～ポジティブインパクトで、豊かな地球を～

キリングgroupは、2013年に2050年を目標とする「キリングgroup長期環境ビジョン」を公表して環境の取り組みを進めてきました。

しかし、2015年のパリ協定やSDGsの採択、海洋プラスチック問題など、世界の環境動向は大きく変わってきています。そこで、従来の環境ビジョンを見直し、社会と企業がこれらの環境課題を解決するための新たな長期戦略「キリングgroup環境ビジョン2050」を策定し、2020年2月に発表しました。

キリングgroupが目指すのは、ネガティブなインパクトを最小化してニュートラルにするだけでなく、自社の枠組みを超えて社会にポジティブなインパクトを与えることです。バリューチェーンすべてを対象として、これからの世代を担う若者を始めとした社会とともに、こころ豊かな地球を次世代につないでいきます。



生物資源
持続可能な生物資源を利用している社会

レインフォレスト・アライアンス 認証取得支援
(スリランカ紅茶農園で2013年から、ベトナムのコーヒー農園で2020年から)

容器包装
容器包装を持続可能に循環している社会

FSC® 認証紙 使用比率100%
(国内飲料事業で2020年11月に達成)

再生PET樹脂100%
(2021年から生茶ブランドの殆どのペットボトルで使用予定)

水資源
持続可能な水資源を利用している社会

水源の森活動
(1999年より業界に先駆けて工場の水源地保全活動を開始。2018年からは、スリランカ紅茶農園内の水源地保全活動も開始)

気候変動
気候変動を克服している社会

使用電力の再生可能エネルギー100%化
(2050年にネットゼロ、2040年に使用電力の再生可能エネルギー比率100%を目指し、2021年からはキリンビール名古屋工場で使用電力の再生可能エネルギー100%化を開始)

キリングgroup いい話

麒麟は古代の中国に伝わる伝説上の動物で、おめでたいときに現れるといわれる、幸福・吉兆の象徴とされています。また、命を大切にすることから、地に足を下ろさず、虫を踏まず、草を折らない、とも言われています。この伝説上のシンボルをいただく私たちは、「麒麟」のように、豊かな自然環境を次世代につなげていくための取り組みを進めています。

幸せを運ぶ
“聖獣麒麟”
～The KIRIN, the messenger of Good Luck～

伝説では、麒麟はよいことがある前触れとして姿を現すといわれています。心優しい動物で、虫や草を踏まないよう、地に足をつけず、空を翔けています。

キリンホールディングスは、ユースの環境活動を応援しています。